

---

## 1 市の沿革

平成 15 年（2003 年）6 月に旧野田市と旧関宿町が合併し、新しい野田市が誕生した。

野田市は千葉県の北西部、関東平野のほぼ中央にあたり、利根川・江戸川・利根運河と周囲を河川に囲まれた、東京都心から約 30 km の平坦な台地に位置している。

野田・関宿両地域は、これまで律令制度が整備され、国・郡・里が地域の単位として定められた頃には、下総国葛飾郡として、市川市国府台付近にあった国府の支配下となり、鎌倉時代には市域の大部分が下河辺荘に属した。戦国時代を経て、徳川家康が関東に入部した際には、北部の関宿に松平氏 2 万石、南部の山崎に岡部氏 1 万 2 千石が配され、両家が深い縁戚関係にあるなど地理的・歴史的に深い結び付きを持ってきた。

旧野田市は、水と緑豊かな自然環境の中で、江戸時代から醤油醸造の地として発展し、産業、文化の面においても周辺地域の中心地として繁栄してきた。しかし、近代以降の鉄道・自動車の発達とともに交通体系は大きく変貌し、東京に比較的近距离に位置しながら、周囲を河川に囲まれた地理的条件にはばまれ、都心部に直結した鉄道や道路に恵まれず、首都近郊都市でありながら都市化の進展がゆるやかで、落ち着いた街並みを形成してきた。

旧関宿町は、江戸時代に整備された利根川・江戸川の水上交通により栄え、関宿藩には幕府の水関所がおかれるなど賑わいを見せたが、時代の推移により水運の要所としての役割を終えた。同町は、近代将棋の父と称される十三世名人関根金次郎や、戦後の日本将棋連盟を再興した渡辺東一など、将棋界を担った棋士を輩出した。また、内閣総理大臣を務め、終戦を決断した鈴木貫太郎が居を移すと、同氏が奨励した酪農が全盛となり、豊かな自然とともに農業・畜産を中心とした第一次産業を基に発展してきた。

合併に関しては、明治 22 年（1889 年）の市制町村制によって、1 町 5 村で形成されていた旧野田市が、いわゆる「昭和の大合併」により、昭和 25 年（1950 年）に市制を施行、32 年（1957 年）には 2 村が合併し、旧野田市が誕生した。一方、旧関宿町は明治 22 年の合併により 1 町 2 村で形成されていたが、昭和 30 年（1955 年）に合併し、旧関宿町が誕生した。

そして、平成 13 年（2001 年）11 月、首都圏で第 1 号となる合併重点支援地域の指定を受け、平成 14 年（2002 年）4 月に野田市・関宿町合併協議会が設置され、平成 15 年 6 月 6 日に実施された両市町の合併により、千葉県では 31 年ぶりとなる平成の合併の第 1 号として新しい野田市が誕生した。